

令和6年度日米共同統合演習（実動演習）について

このことについて、防衛省北関東防衛局から、下記のとおり情報提供がありましたので、お知らせします。

なお、横田基地周辺市町基地対策連絡会における対応については、調整中です。

記

○ 情報提供内容

別紙1、別紙2、別紙3、別紙4及び別紙5のとおり



<http://www.mod.go.jp/js/>

(お知らせ)

令和6年9月26日
統合幕僚監部

令和6年度日米共同統合演習（実動演習）
「Keen Sword 25」について

自衛隊と米軍は、下記のとおり令和6年度日米共同統合演習（実動演習）を実施します。本訓練は、強固な日米同盟の下、日米の即応態勢及び相互運用性を向上させるものです。自衛隊と米軍は力による一方的な現状変更の試みは断じて許さないという強い意志の下、あらゆる事態に対応するための抑止力・対処力を強化し、我が国の防衛及び地域の平和と安全の確保に寄与していく考えです。

記

1 演習の目的

我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、共同統合運用能力の維持・向上を図る。

2 実施時期（基準）

令和6年10月23日（水）～11月1日（金）

3 実施場所（基準）

- (1) 自衛隊施設、在日米軍施設及び区域
- (2) 民間空港・港湾
- (3) 奄美大島、徳之島、沖永良部島、我が国周辺海空域等

4 主要訓練項目

- (1) 主要部隊司令部における指揮所活動
- (2) 共同統合対艦戦闘
- (3) 統合強制進入作戦（水陸両用作戦・空挺作戦等）
- (4) 統合防空ミサイル防衛
- (5) 島しょ防衛
- (6) 海上交通の安全確保
- (7) 重要施設等防護
- (8) 統合後方補給・衛生
- (9) 統合指揮通信システム
- (10) 領域横断作戦の深化

5 演習参加部隊等

(1) 自衛隊

ア 統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部、情報本部及び自衛隊サイバー防衛隊

イ 陸上自衛隊

陸上総隊、各方面隊等

ウ 海上自衛隊

自衛艦隊、各地方隊等

エ 航空自衛隊

航空総隊、航空支援集団、宇宙作戦群等

(2) 米 軍

インド太平洋軍、太平洋陸軍、太平洋艦隊、太平洋空軍、太平洋海兵隊、在日米軍、インド太平洋宇宙軍等

(3) 同志国

豪軍及び加軍

6 演習参加規模

(1) 自衛隊：人員約33,000名、艦艇 約30隻、航空機約250機

(2) 米 軍：人員約12,000名、艦艇 約10隻、航空機約120機

7 その他

(1) 日米共同統合演習は昭和60年度に開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施。実動演習は今回で17回目にあたる。

(2) 豪州、加国、仏国、独国、印国、伊国、リトアニア、蘭国、新国、比国、韓国、西国、英国及びNATOからオブザーバーを招へい予定

【演習の目的】

我が国防衛のための日米共同対処及び自衛隊の統合運用について演練・検証し、日米共同統合運用能力の維持・向上を図るために実施します。

【演習の沿革】

日米共同統合演習は昭和60年度から開始され、概ね毎年、実動演習と指揮所演習を交互に実施しています。本年度は実動演習であり、今回で17回目の実施となります。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

令和6年10月23日(水)～11月1日(金)の間(前後に準備期間及び撤収期間を設定)で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

演習の目的に基づき、我が国防衛のための自衛隊及び米軍の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性及び日米間の連携能力を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができるものです。

令和6年度日米共同統合演習(実動演習)について

その他関連する訓練

- 統合後方補給
- サイバー攻撃等対処
- 協同基地等警備
- 宇宙状況監視に係る連携
- 統合電磁波作戦訓練



統合防空ミサイル防衛



空挺作戦




水陸両用作戦

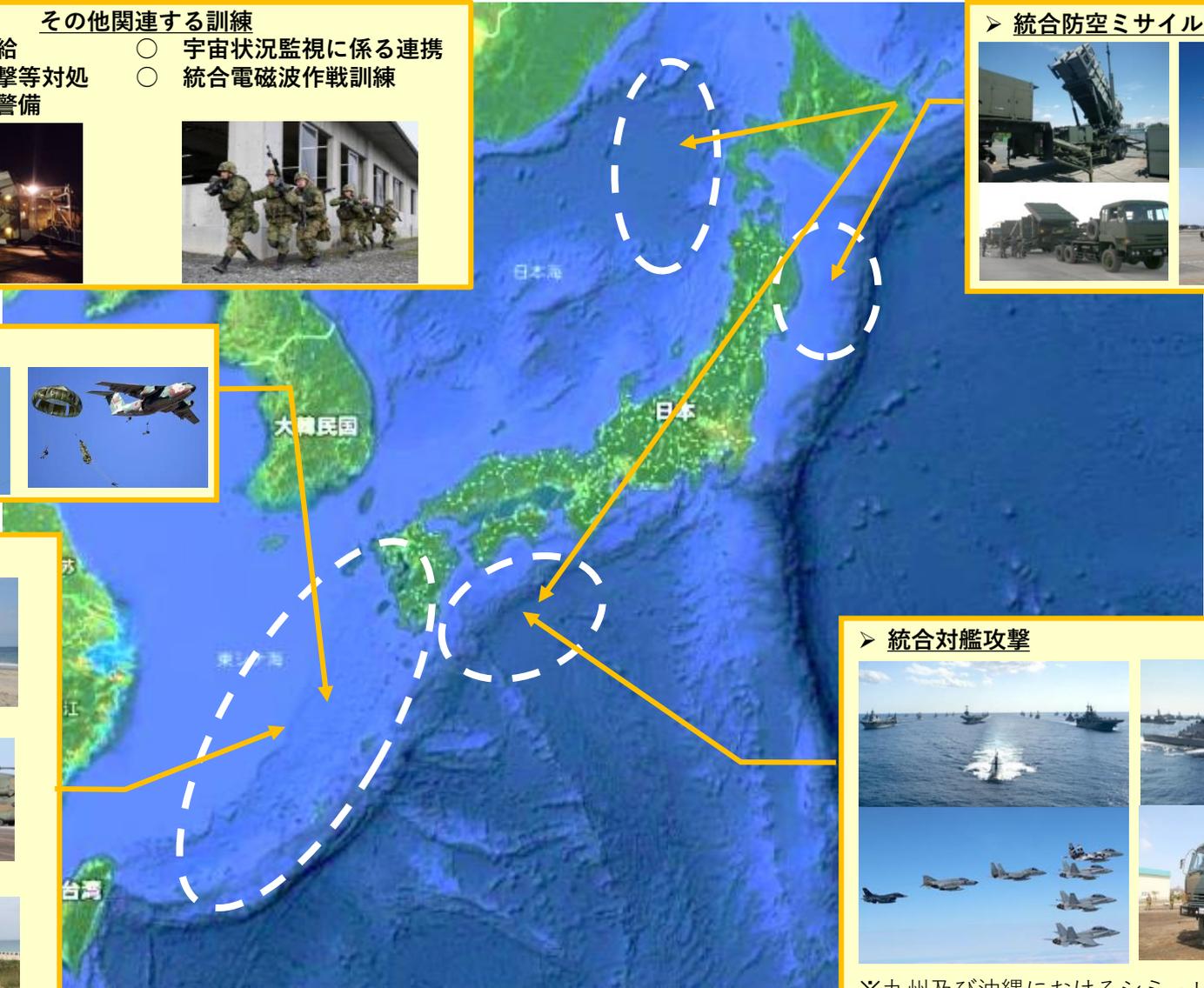




統合対艦攻撃



※九州及び沖縄におけるシミュレーション訓練を含む。



東京都内で実施を計画している訓練内容

①陸上作戦（共同基地等警備訓練）

陸上自衛隊の部隊が米軍基地及び自衛隊基地に展開し、各部隊による基地等警備訓練を実施します。なお、基地等警備訓練において、実弾は使用しません。

【期 間】令和6年10月23日（水）～10月31日（木） ※夜間訓練、空包使用を含みます。

【参加部隊】陸上自衛隊：東部方面隊（約70名）

航空自衛隊：各基地所在部隊（約40名）

米 軍：横田基地所在部隊（約50名）

訓練予定場所



展開人数等

基地等	展開する部隊等
府中基地	第1後方支援連隊（練馬）約20名 航空気象群：30名
米横田基地	第1施設大隊（朝霞）約50名 作戦システム運用隊 約10名 米軍横田憲兵隊 約50名

訓練イメージ



鹿児島県(徳之島)で実施を計画している日米共同訓練内容

③陸上作戦(山地機動訓練)

- 陸上総隊、米陸軍等の一部の部隊が米固定翼機(C-130)からの自由降下(降下員:陸上自衛隊約10名、米軍約15名)及び偵察ボート等により徳之島に着上陸し、徳之島内部の山地において、日米共同による山地機動訓練、偵察訓練等を実施します。
- 上記訓練に接続し、ヘリ等離発着訓練(陸自ヘリ(CH-47、UH-60)及び米垂直離発着機(CV-22))を実施します。
- 訓練間、武器(小銃等)を携行しますが、空包等の使用はありません。

【期 間】

- 10月23日(水) : 自由降下による空路潜入
- 10月24日(木)~25日(金): 偵察ボート等による上陸訓練
- 10月23日(水)~25日(金): 山地機動訓練、地上偵察訓練等
- 10月25日(金) : ヘリ等離発着訓練(陸自ヘリ及び米垂直離発着機)

【場 所】

自由降下及び偵察ボート等による上陸訓練: 花徳海岸、山漁港、面縄漁港、鹿浦漁港及び前浜漁港

山地機動訓練 : 太田布岳山地、井之川岳山地及び天城岳山地(内1か所)

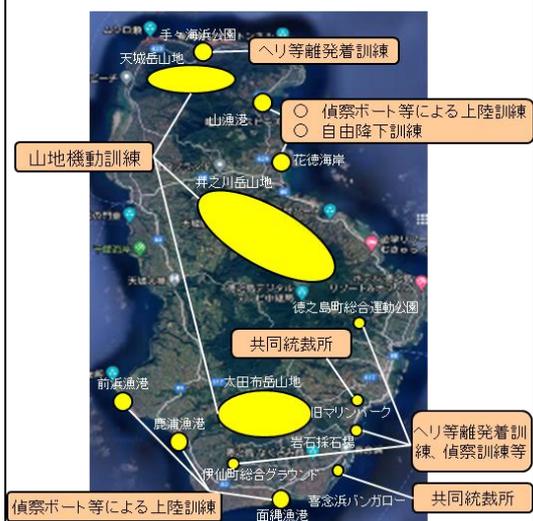
偵察訓練等 : 徳之島町総合運動公園、岩石採取場、伊仙町総合グラウンド

ヘリ等離発着訓練: 手々浜海浜公園、伊仙町総合グラウンド及び岩石採取場

共同統制所 : 旧マリナーパーク、喜念浜バンガロー

【参加部隊】日: 陸上総隊、米: 米陸軍等

訓練イメージ



訓練イメージ

【偵察等】

【山地機動】

【偵察ボートによる上陸】

【自由降下】

沖縄県内で実施を計画している訓練内容 自由降下訓練(伊江島補助飛行場)

別紙 4

陸上自衛隊の部隊が嘉手納基地から飛来し、伊江島沖合の海上及び伊江島補助飛行場において航空自衛隊、陸上自衛隊及び米空軍の航空機※から自由降下及び器材の投下(昼間・夜間)を実施します。なお、訓練間、小銃は携行しますが、実弾及び空砲は使用しません。

※ C-130H及びMC-130による伊江島補助飛行場・滑走路での離着陸はありません。

【期 間】令和6年10月10日(木)～10月13日(日):機動展開、訓練準備

令和6年10月14日(月)～10月18日(金):自由降下訓練(自由降下員:約40名)

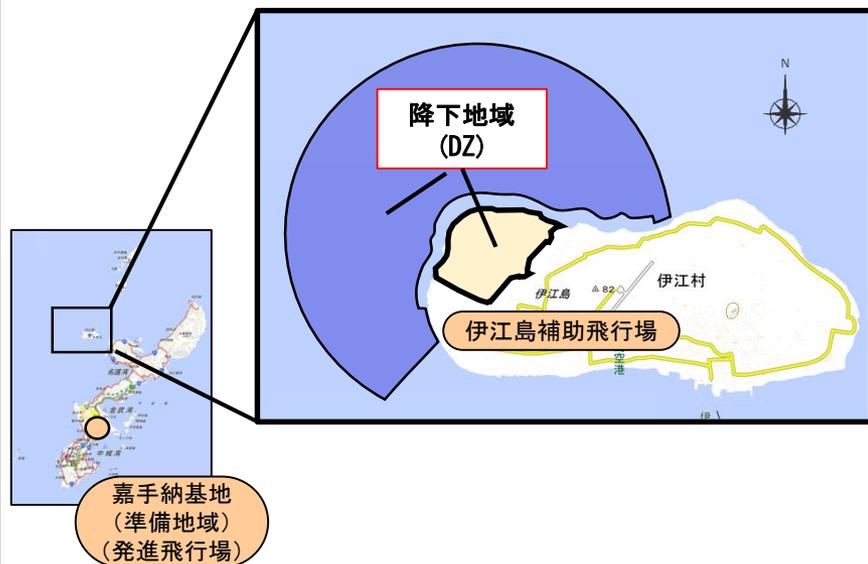
【参加部隊】自衛隊:陸上総隊(約60名、車両10両程度、ボート5艇程度、UH-60、CH-47)、
航空支援集団(C-130H)

米軍:米陸軍(約10名)、米空軍(約5名、MC-130、CV-22)、米海軍(約5名)、米海兵隊(CH-53)

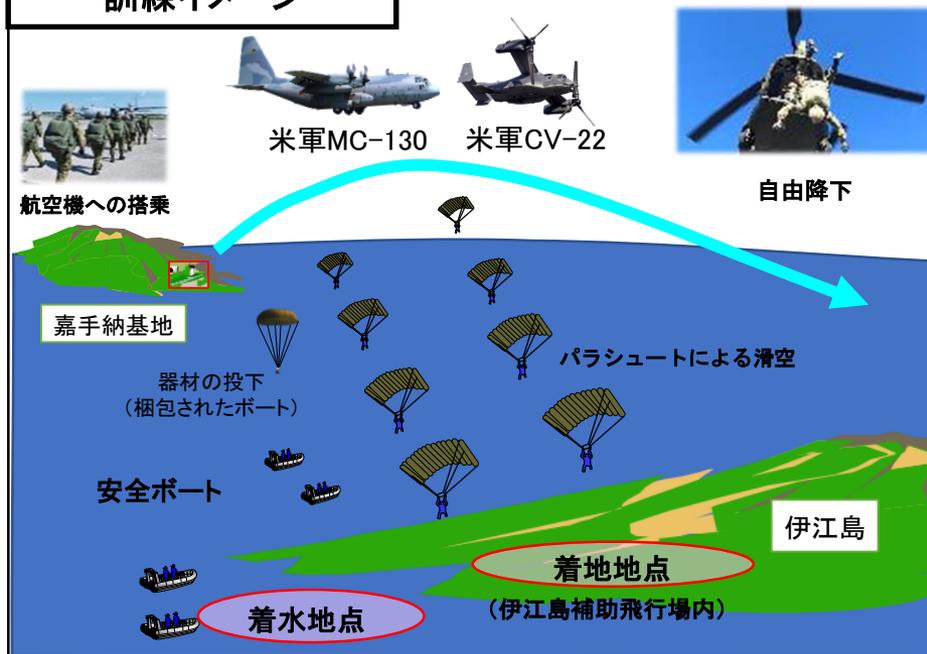
豪軍:豪陸軍(約5名)

加軍:加陸軍(約5名)

訓練予定場所



訓練イメージ



沖縄県内で実施を計画している訓練内容 統合火力誘導訓練(出砂島)

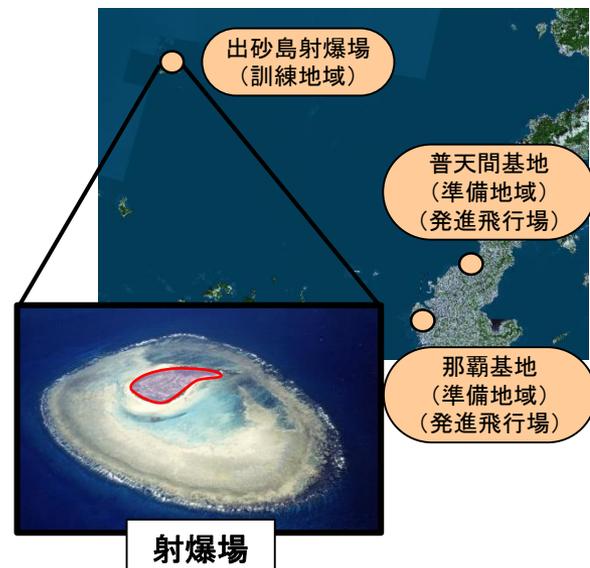
出砂島射爆撃場において、統合火力誘導訓練を実施します。

本訓練は、米軍の戦闘機を誘導し、更に戦闘機が投下した模擬弾を地上にある所望の弾着目標に誘導するものです。また、陸自攻撃ヘリコプターを地上にある所望の弾着目標に誘導するものです。

【期 間】 令和6年10月28日(月)～29日(火): 統合火力誘導訓練

【参加部隊】 自衛隊: 陸上総隊 約10名、自衛艦隊 約2名
米 軍: 米陸軍 約10名、米海軍 約10名、米海兵隊 約10名、米空軍 約10名
豪 軍: 豪陸軍 約 2名
加 軍: 加陸軍 約 2名

訓練予定場所



訓練イメージ

人員の輸送



那覇基地 : 陸自V-22
普天間基地: 米海兵隊MV-22
嘉手納基地: 米空軍CV-22

陸上自衛隊



AH-64D 2機

米海兵隊



F-35B 2機
F-18 2機

米空軍



AC-130 1機
F-16 2機

